

## 【重要】Red Hat Enterprise Linux 7 延長ライフサイクルサポートアドオン提供 および Red Hat Enterprise Linux 価格体系の変更について

平素よりクラウドゲートウェイサーバーホスティング（以下、CGH）をご利用いただき誠にありがとうございます。

CGH（SDPF クラウド/サーバ）における仮想サーバー、ベアメタルサーバー、ハイパーバイザーのゲストイメージ 各メニュー向け Red Hat Enterprise Linux 7（以下 RHEL7）の Red Hat 社のサポートが 2024 年 6 月 30 日に終了いたします。つきましては、2024 年 7 月 1 日より Red Hat 社の継続サポートを得られる延長ライフサイクルサポートアドオン(以下、ELS)を 2024 年 7 月 1 日時点で利用されている対象メニューの全契約に対して原則適用させる変更を実施いたします。

また、Red Hat 社によるライセンス提供体系の変更に伴い、2024 年 10 月 1 日より CGH における Red Hat Enterprise Linux（以下、RHEL）の価格体系を変更いたします。

### 1. Red Hat Enterprise Linux7 OS 提供仕様

2024 年 7 月 1 日より RHEL7 ご利用の全契約に対して ELS を原則適用いたします。ELS 適用に伴う RHEL7 のサポート期間、サポート内容は以下の通り変更されます。

		変更前 2024 年 6 月 30 日まで	変更後 2024 年 7 月 1 日以降	説明
サポート 期間	全メニュー	2024 年 6 月 30 日	2028 年 6 月 30 日	サポート期間が延長になります。
サポート 内容	お問い合わせ	有り	有り ※1	Red Hat 社によるサポートが継続されます。
	脆弱性パッチの 配布	有り	有り	Red Hat 社が定義する影響度が「重大」および「重要」に該当するセキュリティ脆弱性のパッチ配布が継続されます。
	バグ修正パッチ の配布	有り	有り	Red Hat 社が定義する優先度が「緊急」および一部の「高」に該当するバグ修正のパッチの配布が継続されます。

※1 Red Hat Enterprise Linux7.9 がサポート対象となります。  
それ以前のバージョンをご利用の場合はアップグレードする必要があります。

## 2. Red Hat Enterprise Linux OS 価格体系変更

RedHat 社によるライセンス提供体系の変更に伴い、2024 年 10 月 1 日 より RHEL7 を含めた RHEL OS メニューの価格体系をサーバ単位課金から CPU 数に応じた CPU 単位課金に変更いたします。

【価格体系変更および料金例】

(税抜き価格)

メニュー	メニュー詳細	プラン	料金改定前 2024 年 9 月 30 日まで	料金改定後 2024 年 10 月 1 日以降
サーバーイン スタンス	RedHat Enterprise Linux 7	～4CPU	7,700 円	-
		8CPU～	15,500 円	-
	RedHat Enterprise Linux 7 + Extended Life-cycle Support ※1	～8CPU per CPU	-	3,600 円 例) 2CPU : 7,200 円 4CPU : 14,400 円 8CPU : 28,800 円
		16CPU～ per CPU	-	2,500 円 例) 16CPU:40,000 円
	RedHat Enterprise Linux 9	～4CPU	7,700 円	-
		8CPU～	15,500 円	-
		～8CPU per CPU	-	2,300 円 例) 2CPU : 4,600 円 4CPU : 9,200 円 8CPU : 18,400 円
		16CPU～ per CPU	-	1,600 円 例) 16CPU:25,600 円

※1 2024 年 10 月 1 日よりメニュー名を変更いたします

変更後の RHEL OS メニューの価格の詳細は、以下のお知らせをご参照ください。

【重要】クラウドゲートウェイ サーバーホスティングにおける提供メニューの価格改定について (2024 年 10 月)  
<https://business.ntt-east.co.jp/service/serverhosting/news20240418.html>

### 3. よくあるご質問

#### Q. ELS は申し込み制ではないのですか？

A. 2024年7月1日以降にすべてのRHEL7のご利用者向けにELSを提供予定です。ELSをアドオンすることでRed Hat社のログ解析を含んだサポート、重要度・緊急度の高い脆弱性対応のパッチ提供、重大なバグ修正のソフトウェアの提供が継続されます。

#### Q. ELS のサポートを受ける条件は？

A. RHEL7.9が対象となります。RHEL7.9以前のバージョンをご利用中の場合アップデートいただく必要がございます。

#### Q. ELS と通常サポートの差分は？

A. 通常サポートでは、軽微なセキュリティパッチの提供やバグ修正も対象に含まれますが、ELSでは対象外となります。不具合の内容にもよっては、RHEL8, 9以降のバージョンを推奨するケースがございます。ただし、ELSがない場合、これらのログ解析の結果やご案内も差し上げることができません。

#### Q. 2024年7月1日のELSの適用後、料金は変更されますか？

A. 2024年7月1日時点で料金は変更されません。なお、2024年10月1日にCGH料金改定を実施させていただきます予定であり、RHEL7に関しても料金改定の対象となっております。

#### Q. RHEL7のオフィシャルイメージテンプレートを新規作成することは可能ですか？

A. 2024年7月1日をもってオフィシャルイメージテンプレートの提供を停止いたします。2024年7月1日以降に新規作成されたRHEL7はRed Hat社のサポート対象外となります。そのため、新規に構築する際はRHEL8, 9をご利用ください。

**Q. 2024年7月1日以降にプライベートテンプレート、バックアップ&リストア等で新規に作成されたサーバーはど  
ういう扱いになるのか。**

A. ご利用いただくことはできますが、2024年7月1日以降に作成されたサーバーはサポート対象外となります。

#### Q. RHEL7を2028年6月30日以降も使い続けることはできますか？

A. 2028年6月30日以降も利用することは可能ですが非推奨となります。2028年7月1日以降は、一切のサポートが不可となるためRHEL8, 9への移行を強く推奨いたします。

#### Q. RHEL7 ELSの継続とRHEL8, 9へ移行のどちらが推奨ですか？

A. RHEL8, 9の移行を推奨します。ELSの利用はRHEL8, 9の移行が間に合わない場合の暫定対処の位置づけです。

今後ともお客さまにとってより良いサービスをご提供できるよう努めてまいりますので、引き続きご愛顧下さいますようお願い致します。

以上